

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU-R部会 衛星業務委員会(第4回) 議事概要

1 開催日時

平成21年8月5日(水)午後2時～5時25分

2 場所

総務省10階 共用会議室2

3 出席者(敬称略、順不同)

[専門委員]

加藤 寧(主査)、阿部 宗男、小川 博世、加保 貴奈、河合 宣行、鈴木 龍太郎、正源 和義(代理:齊藤 和弘)、高橋 和子、堂前 光洋、徳永 恭子、西尾 裕一郎、橋本 明

[関係者及び説明者]

今井 一夫(B-SAT)、小坂 克彦(NICT)、河野 宇博(スカパーJSAT)、菅田 明則(KDDI)、土田 健一(NHK)、三國 嘉之(国土交通省)、三留 隆宏(日立製作所)、福家 直樹(KDDI)、山下史洋(NTT)

[事務局]

成瀬課長補佐、丸橋係長、西官(以上、衛星移動通信課)
住友推進官、佐藤係長、齋藤官(以上、宇宙通信政策課)

4 議事

- (1) 衛星業務委員会(第3回)の議事概要(案)について
- (2) ITU-R SG4関連会合の報告書(案)について
- (3) ITU-R SG4関連会合への日本寄与文書(案)について
- (4) ITU-R SG4関連会合への外国寄与文書審議表(案)について
- (5) ITU-R SG4関連会合への対処方針(案)について
- (6) その他

5 議事概要

(1) 衛星業務委員会(第3回)の議事概要について

資料衛4-1に基づき、衛星業務委員会(第3回)会合の議事要旨について事務局から説明が行われ、特段の意見がある場合は、平成21年8月12日までに事務局あて連絡を行うこととなった。

(2) ITU-R SG4 関連会合の報告書(案)について

資料衛4-2-Aに基づき、WP4A(第3回)会合の結果について河合氏(KDDI)から、資料衛4-2-Bに基づき、WP4B(第3回)会合の結果について河野氏(スカパーJSAT)から、資料衛4-2-Cに基づき、WP4C(第3回)会合の結果について小坂氏(NICT)から報告が行われた。
以上の報告書(案)の説明の後、以下の質疑応答が行われた。

阿部委員:資料衛4-2-CのP.3の2.1.2について、地上コンポーネントと衛星は同一周波数で運用されているのか。

河野氏:資料衛4-2-BのP.7に記載されてあるが”Integrated MMS System”は地上コンポーネントが衛星と同じ管理システムの制御を受け、同一周波数で運用されている

が、「Hybrid Satellite System」は、それぞれ独立に制御されている。

(3) ITU-R SG4関連会合への日本寄与文書(案)について

主査より、各寄与文書案はそれぞれWGで承認された文書である旨説明が行われた後、各文書(案)について審議された。

【資料衛4-3-A-1～4-3-A-5】

河野氏(スカパーJSAT)からそれぞれ説明があり、以下の質疑のあと承認された。

橋本委員: 5件目の寄与文書について、2つのOptionsが提案されているが、どちらがよいかということも踏まえ、順位付けなどをし、番号を付与してはどうか。

河野氏: 修正する。どちらがよいかということについて、特に強い意向はないが、今後の勧告の維持という点で考えると、SF.675が今まで15年間改訂されていなかったことに対し、SM.328は頻繁に改訂がなされていることから、「SM.328をRR Appendix 4から参照する」ほうが望ましいかと思う。

【資料衛4-3-A-6】

今井氏(B-SAT)から、勧告BO.1776改訂草案について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料衛4-3-A-7】

河合氏(KDDI)から、固定衛星業務(FSS)と固定/移動業務間の共用のためのアダプティブアレイアンテナによる干渉軽減技術に関する新レポート素案について説明があり、以下の質疑のあと承認された。

加藤主査: この審議については、今回の文書で完結が見込まれるか。

河合委員: そのように想定している。

【資料衛4-3-A-8】

土田氏(NHK)からWRC-12議題1.13のCPMテキストの進展に向けた作業文書について説明があり、以下の質疑のあと承認された。

橋本委員: 提案の5件目については、article9.11の適用において議論が継続しているためスケアブラケットをつけているということではどうか。

土田氏: その通り。

橋本委員: スケアブラケットの記載は他にも散見されるようだが、Editor's Noteとして、脚注等にそれらの部分は現在審議中であることを付け加えるとよいのではないか。

土田氏: そのように修正する。

【資料衛4-3-B-1～4-3-B-2】

福家氏(KDDI)からそれぞれ説明があり、以下の質疑のあと承認された。

阿部委員: 2件目の文書について、これについては、WDが議長報告に添付されているが、その修正提案ではないのか？

福家氏: 修正提案ではあるが、全面的に書き換えているため、特に修正の履歴などは残していない。

橋本委員: IntroductionにWP4Bがこれまで衛星IPのQoSについてPDNRに向けて研究してきたとあるが、このアウトプットはどこになされているのか。

福家氏: 前回4B議長報告のAnnexにWDとして添付されている。

【資料4-3-B-3】

河野氏(スカパーJSAT)から適応符号化・変調による影響に関するレポート/勧告に向けた作業文書について説明があり、特段の質疑なく承認された。

【資料衛4-3-C-1～6】

三留氏(日立製作所)から、SG4で差戻しとなったDNRの修正提案(資料衛4-3-C-1)、5000-5010MHz帯のRNSS特性の新勧告案についてのDNR提案(資料衛4-3-C-2)、5010-5030MHz帯のRNSS特性の新勧告案についてのDNR提案(資料衛4-3-C-3)、5000-5030MHz帯のRNSSとAM(R)Sとの両立性(WRC-11議題1.4関連)について、WP5Bからのリエゾンに対する返信(資料衛4-3-C-4)、RNSS受信機へのパルス干渉評価方法の新勧告草案の修正提案(資料衛4-3-C-5)、5GHz帯RNSSのアプリケーションをまとめたITU-Rレポートの作業文書の修正提案(資料衛4-3-C-6)について説明が行われ、以下の質疑応答の後、承認された。

(資料衛4-3-C-1～3)

阿部委員: もともと“protection criteria”が問題となったのは、1.2～1.3GHzのRNSSが地上系に対して干渉を与えてはならない及び保護を求めてはならないといったセカンダリーの立場にあったことから、protection criteriaのレコメンデーションを作るのはそぐわないということだった。

三留氏: 脚注をみると、確かに有害な干渉を与えてはならないと規定されているが、No.5.43は適用されないとあるので、protectionは求められることとなる。

阿部委員: 1.2GHz帯と5GHz帯のステータスは違うので、5GHzにはprotection criteriaを同様に使用するのは問題があるので、よく議論すべき。

(資料衛4-3-C-4)

橋本委員: リエゾン返信の要点の1つに、AM(R)Sからの干渉許容量として、 $\Delta T/T < 6\%$ を提案するとあるが、6%はどのように配分されているのか。

三留氏: R.R143では、同じ業務間だと20%、異業務間だと6%であると規定されている。したがって、RNSSとAM(R)Sは異業務間なので、6%を配分した。

橋本委員: 本文中に、パルス幅についてconsiderをした方がいいと記載されているが、もっと表現を強くすべき。

(資料衛4-3-C-5～6)

特段の意見はなく、承認された。

【資料衛4-3-C-7～8】

三國氏(国土交通省)から、航空移動衛星(R)業務が必要とする周波数の優先使用の規定(WRC-12議題1.7関連)について、これを導入させるためのMethodについて説明が行われ、関係者間で調整を行った後、メール審議を通して合意を図ることとなった。

菅田氏: 本件は、前回のWGにおいて合意されておらず本委員会で議論されることとなったものである。当社はIMTを利用している立場でありその観点に立つと、特に本件で提示されているメソッドのうち、メソッド3については、本議題の「ジェネリックを変えない」という、本来の趣旨に反するものであるから、受け入れられない。このため、メソッドという表記を改めて、オプションとするなど、文言の修正をしてほしい。また、メソッド3については、日本としては推奨する立場ではないといった文言を追記して、立場を明確にしてほしい。

加藤主査: 本件はまだ合意にいたっていないことから、引き続きメール審議で対応するという

ことよろしいか。

事務局:了。

橋本委員:メソッド1のうち、アドバンテージが"None"というのは表記としては不適切である。

鈴木氏:メソッドとしてではなく、オプションとして対応することを考えている。

橋本委員:カバーペーパー中でこのような表記はよいがAnnex1にメソッドとしてアドバンテージが"None"と書くのはルール違反である。

小坂氏:議論の中で、メソッドをオプションに変更することとなったので、この際、オプションを"some of options"といった表記の仕方では提示した方がよいのではないかと。また、その他議論を呼ばないために、オプション中の、アドバンテージ・ディスアドバンテージの項目を削除したほうが賢明である。

三國氏:了。

橋本委員:Annex1はCPMLレポートの完成品として、強い提案となっている。メソッドとして記載するという事は、メソッドとして合格していることを意味するので、合格となっていないものは書くべきではない。

阿部委員:CPMテキストを提案するという事は、日本のポジションを意識しながら表現を提案するという事なので、WRC部会のメンバーの議論が必要である。

小坂氏:前回のWGで、事務局を通して、部会のメンバー間で本案件を調整することとなっている。

事務局:現在、部会のメンバーに照会をかけており、意見を頂戴しているところ。

加藤主査:本寄与文書は委員会の合意が得られた後に、入力されることとなるので、メール審議をとおり照会をかけて調整をすることとしたい。

事務局:まずは、関係者の中で調整をした上で、その後委員会の皆様に照会をすることとしたい。

【資料衛4-3-C-9】

山下氏(NTT)から、MSSにおける両偏波有効利用に関する暫定新勧告案に向けた作業文書の修正提案について説明がなされ、下記の質疑応答の後、承認された。

橋本委員:リコメンデーションを目指していたものをレポートに方針を変更したわけだが、その旨がProposalに唐突にでてくるので、そこにいたるまでのロジックを明確にして、Introductionあたりに反映させてほうがいい。

山下氏:了。

阿部委員:本レポート案のあと、まだ追加されることなどあるのか。

山下氏:今年度の10月~11月にアンテナを動揺させる衛星の実験が残っているため、その実験結果を反映させることを考えている。

阿部委員:次々回の会合が完結ということならば、PDNRで出したほうがよいのではないかと。

山下氏:当初はリコメンデーションを目指していたが、前回のドラフティンググループの中で、Question改訂の議論がなされていない状況下では、ワーキングドキュメントに留めておいたほうが望ましいという意見がでた。

橋本委員:当初のリコメンデーションからレポートにスコープが縮小しているわけであるから、次々回で完結することを考慮すれば、ワーキングドキュメントを外して考えた方がよい。

山下氏:その方向で考えていきたい。WP4Cの中では利用が限定されるので、まずはレポートでまとめておいて、その後、利用が実際考えられるようであれば、その先も考えていきたい。

橋本委員:今までは、本件に関する寄与文書は日本からしか入力されなかったわけだが、今回は不明である。このため、他の国から寄与文書ないという状況においてはレポートにするとすれば、他の国から寄与文書があった場合はその国と相談してから考え

なおすこともできる。

山下氏: その旨も一文追記したいと思う。

【資料衛4-3-C-10】

菅田氏(KDDI)から移動衛星業務におけIPパケットアプリケーション用参照システムパラメータについて説明がなされ、本件の位置づけに関する質疑があり、以下の回答の後承認された。

小坂氏: 本件の位置づけとして、研究課題に8/233と記載されているが、WP8Dはもう存在しない。このため、本件は4/233となっているが、内容として4Aと4Bの境界にある。議長のワインリッヒと相談することとなるが、場合によっては4Cでは審議されない可能性がある。

阿部委員: 本件は、4Cと8Dのどちらのレポートに入力されているのか。

菅田氏: 4Cではまだ扱われていない。4Cになって、最初の会合でQuestion 233のスラッシュ8が欠けた状態で割り当てられた。名称は233で、内容はIPパケットアプリケーションなのでまさに内容としては233/8ということとなる。233/4は確かにあるが、衛星の特性といった一般的なQuestionとなっており、IPパケットといった特化したものではない。

橋本委員: 233/4は、4Aや4Bに引き継がれている。4Cでは該当Questionがあるかないかだが、これはワーキングドキュメントなのだから4Cで再構築するといった方法がある。

小坂氏: 議長のワインリッヒに、本件の扱いについて相談しようと思う。

阿部委員: 4Cの方が先にあるので、4Cに入力して、4Bの方が適切な場合4Bに送ってもらうというのが、事務処理上誤りがない。まずは、ワインリッヒに確認して、4Bに出すのが適切である。

本件の取扱いは、小坂氏からワインリッヒに確認することとなり、その結果を踏まえ適切なWPIに入力されることとなった。

(4) ITU-R SG4関連会合への外国寄与文書審議表(案)について

SG4関連会合への外国寄与文書審議表について、事務局から説明され、特段の質疑なく承認された。

(5) ITU-R SG4関連会合への対処方針について

SG4関連会合への対処方針について、事務局から説明され、下記のエディトリアルな修正の要望のあと、特段の質疑なく承認された。

菅田氏: 資料衛4-5-Cの1(4)の寄与文書の名称について、新レポート案に向けた作業文書の修正提案の文言を追記してほしい。

事務局: 了。

(6) その他

【参考資料2~5】

事務局から参考資料に基づき説明が行われた。また、今後公表される外国寄与文書の対処については各WGでの対処方針を基に対処していくが、特に審議が必要と思われるものについては、衛星業務委員会にもメールで審議をお願いする旨事務局から説明が行われた。

以上

配付資料

資料 衛4-1	衛星業務委員会(第3回)の議事概要(案)
資料 衛4-2	ITU-R SG4 関連会合の報告書(案)
資料 衛4-3	ITU-R SG4 関連会合への日本寄与文書(案)
資料 衛4-4	ITU-R SG4 関連会合への外国寄与文書審議表(案)
資料 衛4-5	ITU-R SG4 関連会合への対処方針(案)
参考資料1	衛星業務委員会の関連WGの審議報告
参考資料2	ITU-R SG4関連会合の開催案内
参考資料3	ITU-R SG4関連会合の日本代表団一覧(予定)
参考資料4	ITU-R SG4関連会合の開催日程
参考資料5	衛星業務委員会専門委員名簿(平成21年7月現在)